22

テーマⅠ・Ⅱ複合型 アクティブ・ラーニング＆学修成果の可視化

関西国際大学

大学と産業界の評価の不連続解消へ向けて

～インターンシップを糸口として～

①経験学習を通じアクティブラーニングを推進
「課題探求型」インターンシッププログラムの導入
「リフレクションカレッジ」によるモニタリング
課題解決型のゼミナール運用への展開

②学生の自己評価能力を向上させる
目標と課題を自ら設定　企業の評価と摺合せ

③学生のピアサポート充実
インターン経験で“目覚めた“学生を活用

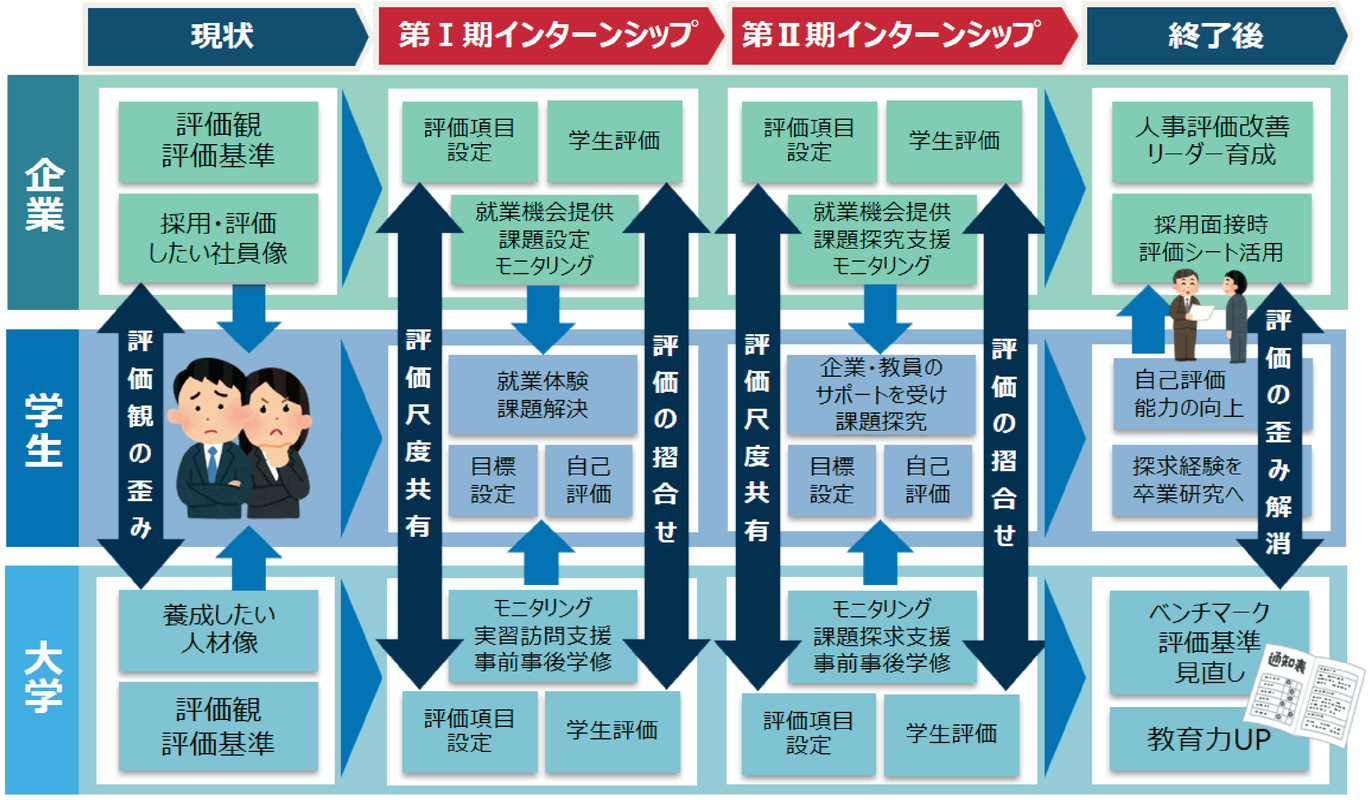
④学修成果の可視化の推進
eポートフォリオの改修、ポートフォリオサマリー構築

⑤チューニング結果を本学教育プログラムに反映
「ルーブリック」の構築　「KUIS学修ベンチマーク」見直し

「課題探求型インターンシップ」

大学と産業界との評価観を共有するための糸口である従来の「AP型インターンシップ」を、さらに学生の成長に繋がるアクティブラーニングの場とするため、より教育効果の高い「課題探求」の要素を入れたプログラムを導入、実施した。学生は、第Ⅰ期インターンシップ(5～15日)での経験をもとに自ら探求したいテーマを設定。第Ⅱ期(10～12月)に、企業担当者や教員の助言をもとに探究を深めていくプログラム。

●探求テーマ例：
・学生目線を活かした大学ポータルの改善案(情報通信)
・副業×地域スポーツで国民の健康増進を行う新ビジネス(証券会社)
・キッズビジネス現場でのこどもとの関わり方(テーマパーク)



私の探求テーマ(2018)

『新しい「ふるさと納税」としての地域優良企業への株式投資』

人間科学部経営学科　木村心

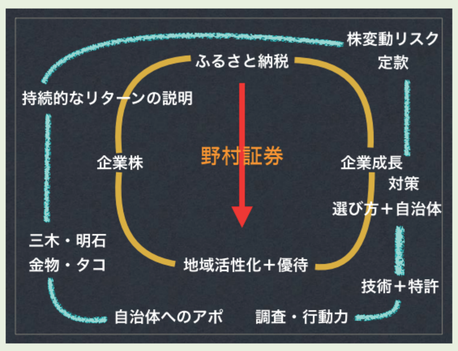
1．仮説

○これまでの納税の使い方をインフラ整備だけではなく地域の未来への「投資」として認識し運用するべき
○「ふるさと納税」を単に「寄付」と捉えるのではなく、地域経済や地域企業の持続的発展という目的へとシフトさせ地場産業創造と発展に焦点を充てるべき
↓
○「ふるさと納税」の新しい返礼品として、今後、活躍の期待できる地元企業やブランド化で市場拡大が期待できる地元企業の株式発行と販売を提案
○返礼品はその企業の株主優待として製品やサービス、体験等を配布
○特定地域や企業、商品を育成する楽しみとビジネスの展開

2．ふるさと納税

○現住所の自治体への納税ではなく出身地や特定の自治体に寄付できる制度
○納税とあるものの実際は寄付で税金から控除・還付
○地域貢献に繋がるだけでなく特産品・名産品がお礼品として貰えるため人気
↓
●税金が控除されるため、節税目的で行う人も多い。
●明らかに寄付金よりも高額は返礼品が横行している。
●地域に全く関係ない商品を返礼品にしている自治体も多い。
●高額な返礼品目的の利用者も多く、様々な紹介本、サイトが登場している。

3. ポンチ絵（初期）



○納税が直接的にインフラ等に使われるのではなく地域に循環するシステム
○返礼品として企業の株式を発行して配布
○その株主優待として商品やサービスを返礼品を提供
○地域の地場産業だけでなくスタートアップ企業も対象
○証券会社は対象企業の選定と株式売買を担当
○行政はこのシステムの運営と管理、そして説明や募集等の広報を担当

4. 問題意識

○高級肉、蟹等の特産品且つ高級品が多く、紹介サイトも登場し盛況である。
○しかし、明らかに寄付額に対し高額であるものや、赤字となっても地域の知名度アップやブランド構築のため高額商品を返礼品することも行われている。
○特産品がない自治体はPCやハーゲンダッツ等の無関係の返礼品を配っている。
↓
●総務省も難色を示し、納税額の3割を越えないことや指導に従わない自治体は認めない地方税法の改正案が閣議決定された。

○この問題の要点は納税のメリットが地域への長期的、直接的な発展に繋がっていない点と考えられるのではないか。
○インフラ等、遠回しな地域貢献も重要だが、直接的に地域企業に繋げる必要がある。
○返礼品が継続して魅力を発揮しブランド化、持続的に納税を呼び込むのが望ましい
↓
本来の目的である地域創生、活性化に活かすには内容や仕組みを考え直す必要
特に地域の経済と生活を支えていく地域の地場産業の育成を特に目的にすべき

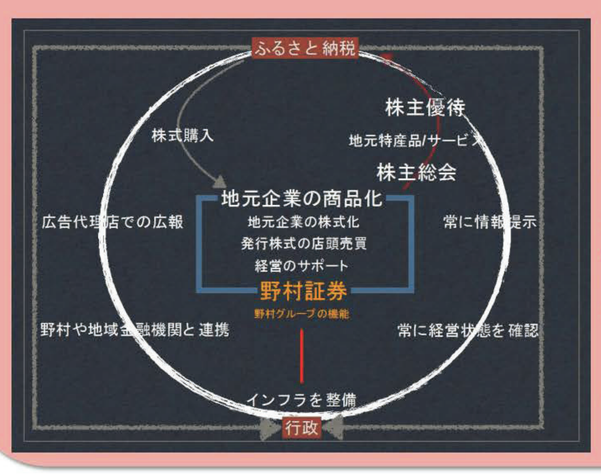
5. 初期提案

＜提案内容＞
○ニュースで採り上げられる返礼品の問題と地場産業の問題について報告
○ふるさと納税の問題点を調べて報告
○商品構成や選定方法の見直しで本来の目的を達成するシステムを提案
○本提案のメリットと想定される結果を説明
＜コメント＞
○面白いテーマで提案であると評価
○提案と既存のふるさと納税の違いが不明確と指摘
○提案の新規性と、既にある返礼品の調査が不完全であると指摘
○行政は本提案のような方法をなぜ採用しないのか、調べる必要を指摘
○言葉や文章での説明が分かりにくく、図で示すよう指示

6. 第 2/3 次提案

＜提案内容＞
○改めてシステムと特徴、そして問題点を再点検してアイデアを再検討
○證券会社の入る意義を再検討
○アイデアをポンチ絵をとして作成し、ポイントを説明
○既存のふるさと納税や関連ビジネスとの違いや関連性を検討し説明
○既存の Web 紹介サービス等を調べ、融合はできないか検討し提案に活用
＜コメント＞
○證券会社が関与する意義、役割が明確ではないので再検討を指示
○既存の返礼品の中で、類似事例の有無や特異例も調べるよう指摘
○図の補足を加えて図分かりやすく再作成するように指示
○既存の民間サービスとの融合は面白いと評価
○株券の返礼品の法的問題、運用について更に調べる必要性を指摘
○最近の同様の目的のクラウドファンディング型も調べ優位性を考えるよう指摘

7. 最終提案

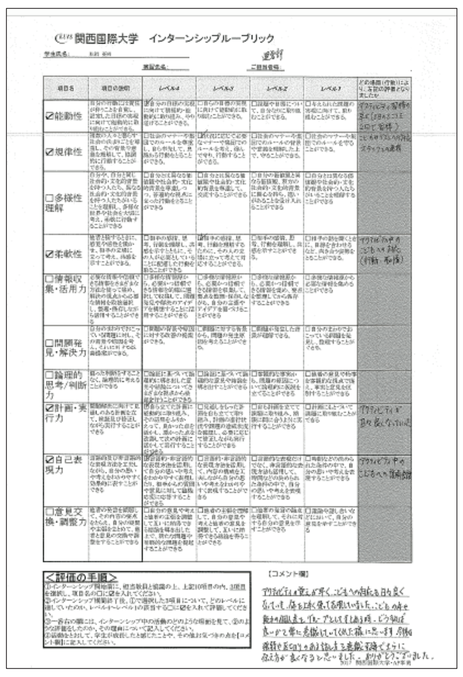


＜ポイント＞
○ふるさと納税を地域インフラへの直接的運用ではなく、「投資」として地元企業を育成し、結果的に税収を増やす循環型納税と運用システムとする。
○株式発行と配布によって株式優待を主とした返礼を行い継続的ブランド化を行う。
○證券会社は地元金融機関や地域ファンドとも連携し、資本獲得や販売戦略、業務提携等の経営指導の中心として企業を育成し地元企業商品化（株式化）を実施する。
○株式会社化が難しい場合、行政がクラウドファンディング形式での「投資」として募集し、育成を行う。その次段階として株式会社化を行う。
○證券会社は地元優良企業の選定だけでなくグループ力を活かして後継者マッチング、M&A 等のサポートを行って将来の金融商品である企業を育成するだけでなく経営の安定化を図る。
○広告代理店や民間の紹介サイトを採用し、広く投資としてのふるさと納税を募る。
○行政はふるさと納税専用ポータルサイトを構築しリアルタイムでの経営情報や最新情報を発信して遠隔地の納税者を組織化して持続的運用を行う。

ふるさと納税の「投資」化と地域連携による持続的地元企業育成と発展による地域創生の実現
↓
ふるさと納税と新しいビジネスチャンスをテーマに卒業研究で研究を継続

共通ルーブリックを活用したチューニングからの教育改革

大学と産業界等との間で評価の観点と尺度や方法を共有する仕組みを構築するため、インターンシップの評価ルーブリックを導入した。当初はKUIS学修ベンチマークのルーブリックをそのまま利用し、企業の担当者と教員が参加学生の状況について同時にモニタリング。実習後には評価をチューニングする場を設け、その結果、評価項目に追加・変更すべき事項が明らかになり、ベンチマーク見直しの端緒になった。



教員と企業担当者とがインターンシップに参加した学生の評価に対するチューニングを行う

情報交換会にて、受け入れ企業様から評価観や評価項目に対する意見を伺う

2014年度～ KUIS学修ベンチマーク活用	2016年度～ IS版ルーブリック構築	2018年度～ KUIS学修ベンチマーク見直し
自律性	能動性	自律性
規範遵守	規律性	社会的責任性
社会的能動性	柔軟性	多様性理解
多様性理解	多様性理解	問題発見力
共感的態度	情報収集・活用力	情報収集・活用力
知的好奇心	問題発見・解決力	問題解決力
情報収集・活用力	論理的思考/判断力	論理的思考/判断力
問題発見力	自己表現力	情報発信力
論理的思考/判断力	意見交換・調整力	意見交換・調整力
自己表現力	計画・実行力	専門的知識・技能活用力
意見交換・調整力	（上記より3項目選んで評価）	（上記より3項目選んで評価）
計画・実行力		

2014年より、「KUIS学修ベンチマーク」をインターンシップ共通の評価指標として運用開始 → 受入先の意見を踏まえ、ベンチマークを元に新たにインターンシップ版ルーブリックを作成運用 → 更に意見を参考に改善を進め、「KUIS学修ベンチマーク」そのものの見直しに繋がった

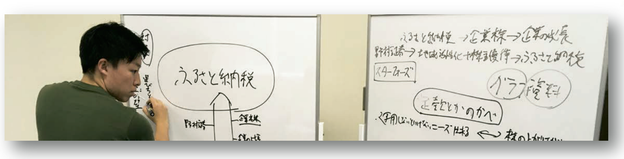
評価の摺りあわせの際に企業様からいただいた主な意見
● ベンチマークを意識させることも大事だが、大学には、ベンチマークや社会人基礎力の土台となる「笑顔」や「挨拶」「積極思考」などの項目設定も必要ではないか。
● ルーブリックのレベル設定で大学と企業との差が大きい。同じ指標を活用するためには、さらに細かいレベル分けを実現し、大学から就業後まで一貫して活用できるツールにすべき。
● 業務中には見えるが大学では見えない学生の能力がある。明確化には個々の業務中の様子を更に共有したうえで摺合せが必要に感じる。

8. 活動結果　ふりかえり

＜活動結果＞
○企業分析でノウハウやアドバイスを活用でき情報収集力レベル向上
○大学で学んできた地域マネジメントに関する知識の活用に成功
○4人での活動や議論を意識したことで他分野の知識を獲得し展開
↓
○「チームへの貢献」と「個人の情報力」を意識し情報力向上実感

＜活動のふりかえり＞
○厳しいコメントを頂きながら努力し評価を頂いたことは、やり甲斐と達成感
○先生との議論や情報収集で色々なビジネスチャンスと楽しさを改めて実感
○自ら経済新聞や経済番組を活かした議論や情報共有で全体の情報力強化を実現
○アプリやWebの知識、起業経験も活かすことができビジネスの議論が楽しいと実感
＜今後の展開＞
○證券会社と総合商社、精密部品メーカーを軸とした就職活動で、身に付けた企業分析、情報収集、自己表現、リーダーシップで自分のレベルアップを実感
○モチベーションの不安定さはビジネスでは致命傷であり改善の心がけ
○経済新聞済番組等の色々な情報収集活用力を業論文や就職活動で活用

テーマを活かし、卒論や就活で企業研究
→さらなる成長に向けた挑戦を続ける



Acceleration Program